

魚介類の核種分析結果 < 福島第一原子力発電所 20 km 圏内海域 >
 2016年度 第2四半期採取分及びその他採取分

【魚介類の Sr - 90 (半減期 約29年) 測定結果】 (データ集約 : 12/20)

試料名 (部位)	採取場所 (地点番号)	採取日	試料濃度 (B q / k g (生)) (半減期)	
			S r - 9 0 (約 2 9 年)	参考 *1 (Cs-134 と Cs-137 の合計)
カスザメ(全体) *2	太田川沖合 1 km 付近(T-S1)	2016年8月5日	0.046	115
ガザミ(全体) *3	太田川沖合 1 km 付近(T-S1)	2016年9月16日	0.048	17
カスザメ(全体) *3	太田川沖合 1 km 付近(T-S1)	2016年9月16日	0.076	18
シロメバル(全体) *2	木戸川沖合 2 km 付近(T-S5)	2016年8月27日	0.27	42.6
イシガレイ(全体) *2	小高区沖合 1.5 km 付近(T-B1)	2016年7月5日	0.032	26.7
コモンカスベ(全体) *3	2F敷地沖合 10 km 付近(T-B4)	2016年7月15日	0.13	17
ブリ(全体) *2, *4	1F敷地沖合 3 km 付近(T-S4)	2016年10月13日	ND (0.015)	ND(3.3 , 3.6)
マアジ(全体) *3, *4	請戸川沖合 3 km 付近(T-S3)	2016年10月13日	0.021	ND(3.5 , 3.9)

基準値 (2012年4月1日以降) Cs-134、Cs-137の合計 : 100Bq/kg。
 NDは検出限界未満を表し、括弧内は検出限界値。Csの検出限界値については、Cs-134、Cs-137の順に記載。
 *1は可食部 (筋肉) で測定
 Sr-90分析は *2 株式会社環境総合テクノス、*3 一般財団法人 九州環境管理協会にて実施。
 Sr-90分析のうち *4 その他採取分 (Cs-134、Cs-137の濃度が低いもの) については、水産庁の依頼に基づき実施。

魚介類の核種分析結果 < 福島第一原子力発電所 20 km 圏内海域 >
 2016年度 第2四半期採取分

【魚介類のトリチウム(半減期 約12年)測定結果】 採取場所(地点番号):熊川沖合4 km付近(T-S8) (データ集約:12/20)

試料名 (部位)	採取日	トリチウム濃度 (Bq / L)		トリチウム濃度 (Bq / kg(生))		参考 Cs-134とCs-137の 合計 (Bq / kg(生))
		組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型	
ヒラメ(筋肉)	2016年7月8日	0.086	ND(0.26)	0.067	ND(0.037)	ND
ヒラメ(筋肉)	2016年8月25日	0.087	ND(0.26)	0.070	ND(0.034)	5.8
ヒラメ(筋肉)	2016年9月26日	0.11	ND(0.27)	0.087	ND(0.037)	ND

< 参考 >

	採取日	トリチウム濃度 (Bq / L)
熊川沖合4 km付近 (T-S8) 海水	2016年7月7日	0.084
	2016年8月24日	0.091
	2016年9月25日	0.12

基準値 (2012年4月1日以降) Cs-134、Cs-137の合計: 食品 1 kg あたり 100 ベクレル

トリチウム分析は 一般財団法人 九州環境管理協会にて実施。

可食部(筋肉)で測定

組織自由水型トリチウムとは魚の筋肉に含まれる水分に含まれるトリチウムをいい、魚が生息する海水中のトリチウム濃度と比較される。

有機結合型トリチウムとは乾燥させた魚の筋肉に含まれるトリチウムをいい、乾燥させた魚の筋肉を燃焼させたときに発生する水に含まれるトリチウム濃度をあらわす。

測定結果は有効数字2桁で記載。

NDは検出限界値未満を表し、括弧内は検出限界値。